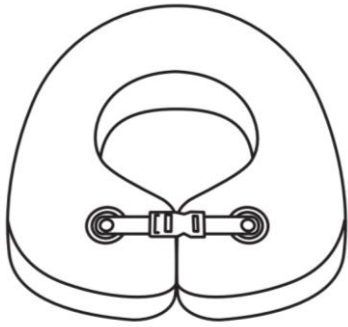


Injury Alert (傷害速報)類似事例

浴槽用浮き輪による溺水 (No.4 浴槽用浮き輪による溺水、No.18 解決したはずの浴槽用浮き輪による溺水 (2009年3月, 10月の2例) の類似事例4)

事例	基本情報	年齢：0歳9か月 性別：男児 体重：11.96kg 身長：76cm
	家族構成	父、母、姉(3歳)、本児
	発達・既往歴	発達：寝返り・座位・ずりばい可、つかまり立ち未 既往歴：特記すべき事なし
臨床診断名		溺水
医療費		入院 520,020円 外来 6,220円
原因対象	対象名称	浴槽用浮き輪 (胴体にフィットする赤ちゃん用の浮き輪) (図1)
	入手経路 使用状況	発生半年前に母方伯母から譲り受けた。姉は使用していない。週1回程度、父が不在で母のみで入浴させる時に使用していた。
発生状況	発生場所	風呂場
	周囲の人 周囲の環境	浴室には母、姉が一緒にいた。本児は浮き輪を装着し浴槽内にいた。姉も浴槽内にいた。浴槽の水深は50cmほどであった。
	発生年月日	2022年6月X日(火) 午後7時20分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	午後7時20分頃、風呂場で入浴中、本児は浮き輪を装着して浴槽内にいた。母が浴室外に物を取りに出て戻ってみると、浮き輪ごと本児が前のめりに傾いており、本児の顔面が水面下に浸かり後頭部と背部は水面上に出ている状態であった。1分未満の間で起きたことであった。母がすぐに引き上げたところ、本児に食物残渣の嘔吐と反応不良を認め、救急要請された。経過中に徐々に反応は回復していった。
医療機関受診時以降の 治療経過 転帰		医療機関に到着時、バイタルサインは体温38.7度、脈拍186/分、 血圧115/67mmHg、SpO ₂ (室内気)98%、呼吸数45回/分であった。また意識レベルはJCSI-1、母に抱っこされており視線はあうが活気に乏しい状態であった。 溺水後の誤嚥性肺炎として抗菌薬の点滴加療目的に入院となった。X+1日の脳波および頭部MRIで低酸素性脳症を示唆する異常所見はなかった。X+2日には解熱し、X+6日に抗菌薬を終了し自宅退院となった。 退院1週間後の外来で後遺症はみられなかった。
キーワード		浴槽用浮き輪、溺水



(a)



(b)



(c)

【図1】

(a) 浴槽用浮き輪、(b) 浴槽用浮き輪を装着した乳児、(c) 発生時の様子のイメージ図（浮き輪ごと本児が前のめりに傾いており、本児の顔面が水面下に浸かり後頭部と背部は水面上に出ている状態）